

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年3月19日

事業所名 キラキラ倶楽部

	チェック項目	はい	いいえ	未回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	1	0	園庭や体育館等を利用することで子どものパーソナルスペースを確保している。	クールダウンできる場がもう少しあっても良いと考える。
	2 職員の配置数は適切である	7	0	0	配置基準の2名に加え、加配職員も配置している。	多職種いるが、スタッフ個々の質を上げていきたい。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	3	1	室内は玄関を除きバリアフリー化されている。ドアはスライド式になっている	室内はバリアフリー化だが、室外は整備されていない砂利に近いそのため。車椅子児童の場合、車椅子が動きにくかったり歩ぎにくい場合もあるので、必要に応じてスタッフが介助している。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	2	0	兼任スタッフも含め日々のふりかえり等行っている。牧場とも定期的に連絡会を持ち、子どもの状況を確認している。	参画していても業務に活かされているか個人差がある。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	0		アンケート結果を職員全員に周知し、意見を参考に業務の改善につなげていく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	1	0	法人のホームページで自己評価の結果を公表している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	1	2		第三者委員の方にアンケートの結果を確認してもらい意見をもらうようにする。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1	0		時間や業務に追われて難しいところが正直ではあるが、研修に参加できなかった職員には、事業所内で伝達講習を行い、情報の共有と周知を図る。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	1	心理士の意見も取り入れアセスメントしている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	3	1		施設内独自のアセスメントツールを作成している。子どもに合わせて必要な評価を行っていく。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	0	活動前後にミーティングを行い、計画に反映させている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	0	なるべく同じ遊びが続かないように気をつけている。	子どもの状態に応じて、レベルをあげたり、役割を持たせるように工夫していく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	1	0	長期休暇時には、施設外への外出等を通して社会のルールやマナーを学ぶ活動を充実させている。	誰でもプログラムが立てられて、皆で意識してできればと思う。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	1	保護者や本人と面談し、事業所内外で支援者で会議をしたうえで個別支援計画を作成している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	0	朝礼及び開始前のミーティングで当日の送迎等の担当や活動内容について確認している。	長期休暇などでは話し合う時間をもつことが難しいので、当日の利用者及び送迎担当者等記入した体制表を各自が確認する。確認をしても理解できていない場合は必ず管理者等に確認する。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	0	0	大切な引継ぎは支援終了後に、基本的には翌日の朝に振り返りし情報共有する。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	0		支援の改善については個人差あり。活動時の様子だけでなく、細かな変化や成長が分かるような記録にする。
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	0	1	6ヶ月に一度はモニタリングを行い、計画の見直しが必要か検討している。		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	4	1	2			

	チェック項目	はい	いいえ	未回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	0	主に児発管または対象利用児の状況をよく理解した職員が出席している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	0	0	送迎時に担任の先生と子どもの様子について確認している。また直接担任の先生等に電話等で情報共有や確認事項を連絡している。	下校時刻を10分経過しても、児童の姿が見えない際は、必ず事業所に連絡して確認をとるようにしている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	2	1		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	0	1		児童のケースによるが、引継ぎはある。ケースによって保育所等に訪問させていただき、子どもの様子を見たり担任の先生に話を聞いたりして情報共有を図る。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7	0	0		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	3	2		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	5	0		今のところ対象となる子どもたちと交流する場は設けていない。今後必要に応じて検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	4	1	必要に応じて出席している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	0	連絡帳や送迎時の申し送りの時間を使い活動の様子や気づき等を伝えている。また直接保護者に電話等で連絡し情報の共有をしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6	1	0		今後さらなる保護者支援が必要になってくると考える。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	0	契約の際に説明させて頂いている。内容に変更があった場合は速やかに丁寧に説明を行う。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	1	子どもの様子で気になる時や相談を受けた場合は、その都度対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	6	1		活動発表会等のイベント等を通じて保護者同士の交流が図れるように検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	2	連絡帳に苦情の記載があった場合など、他スタッフに伝える、相談するなどしている。	苦情があった場合は速やかに苦情解決責任者にあげ真摯に対応する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	5	0	活動や行事の予定はどの都度おたよりを渡している。	今後は、年間を通じた活動の様子をまとめたファイルなどを保護者がいつでも見られるよう整備する。
	35	個人情報に十分注意している	6	0	1	情報管理の研修を行い、個人情報の取り扱いには十分に気を付けている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	0	絵カードや50音ボードを作成しており必要時は使用する。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	6	0		

	チェック項目	はい	いいえ	未回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	0	0		保護者が閲覧できるよう配慮する。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	0	年間計画に沿って避難訓練等を行っている。夏前には必ず救急蘇生の講習を受けている。	BCPIに則り地震、水害等様々なケースでの訓練を行うようにする。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	0	施設内外の研修に参加している。参加した職員による伝達講習を行い周知を図っている。	
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	0	2	身体拘束については個別支援計画に記載し保護者に説明している。	
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1	3	家族からアレルギーの有無について、利用時に聞き取りしている。	現在までにアレルギーに注意を要する児童はいないが、今後事例があれば注意すべきことを職員に周知徹底し対応にあたる。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	2	ミーティングで事例を共有し対策を検討している。	